



かふん 花粉はどうしてあるの

しそん のこ 子孫を残すため

たいていのくさばなや木は、種から芽を出して大きくなり、たくさんの種を残して、やがてか
れていきます。種が残れば、その仲間ほろびません。どんな生き物も、子孫を残すことが、
いちばん大切な仕事になっているわけです。

ヘチマは、お花とめ花が別になっていて、お花の花粉が、め花のめしべにつく(これを受粉
という)と、ヘチマの実ができ、種が残ります。花粉を運んでくれるハチなどが1ぴきもい
ないと、め花はかかれて落ちてしまうだけです。リンゴやサクランボ、メロン、イチゴなども、
みな、受粉が行われないと、実がなりません。温室や果樹園などでは、受粉の時期になる
と、人間が花の一つずつに花粉をつけたり、ミツバチの巣箱をかりてきて、ミツバチに受粉
をしてもらうことが多いのです。

き かぶ かふん ちがう木や株の花粉がないと、実がならないものもある

ふつう、同じ種類の花の花粉でないと、受粉しません。また、ウメや、ナシ、イチゴ、サ
クラなどは、同じ木や株の花の花粉では、ほとんど実がなりません。ほかの木の花粉をもら
わないと、受粉しないのです。こんな種類を、他家受粉植物といいます。同じ木や株の、
ほかの花の花粉で受粉するのを、自家受粉といいます。

自家受粉の中でも、一つの花の中にある、おしべの花粉とめしべで受粉する花を、自花受粉
といいます。自花受粉では、病気や環境の変化に弱い種ができやすいため、自花受粉を
するものは、アサガオや、トマト、イネ(風が花粉を運ぶ)など、数は少ないです。

(監修・矢野 亮)

